

国内希少野生動植物種に追加する種の概要について

<昆虫類>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>1. クメジマボタル (<i>Luciola owadai</i>)</p> <p>分類： ホタル科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>体長12～16mm。体は黒色、前胸背板は橙黄色で、紅色のゲンジボタル<i>L. cruciata</i>と異なる。オスは第5・6腹節、メスは第5腹節に発光器がある。前胸背板の幅は長さの1.6倍。上翅の長さは幅の2.5倍、密に点刻され、4本の条線がある</p> <p>幼虫は、常緑広葉樹林や二次林中の、河床が礫や石からなる源流部から上流域や水路で成長する。成虫は、日中は流畦や流れに隣接した樹林で休み、夜間は流れの周辺で交尾や産卵を行う。</p> <p>沖縄県</p> <p>森林伐採、圃場整備、土地造成等の各種開発に伴う生息地の減少、農薬汚染。</p> <p>沖縄県の天然記念物に指定されている。</p>
<p>2. ツシマウラボシシジミ (<i>Pithecopis fulgens tsushmanus</i>)</p> <p>分類： シジミチョウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 II類 (VU)</p> <p>固有亜種</p>	<p>ア、ウ エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>成虫は小型（開張23～26 mm）で、翅形は細長い。♀の翅表は一樣な黒褐色。♂の翅表は外縁のやや幅広い黒帯を残して強く青紫色に輝く。裏面は♂♀同様で、後翅前角に近い位置に大形の黒色円紋が白色の地色にくっきりと目立つ。亜外縁に淡黄褐色の細い条線が走る。</p> <p>沢沿いのスギやヒノキの植林地や広葉樹林の林床、沢沿いの林道沿い、シイタケの栽培地等が良好な生息地となっている。</p> <p>長崎県</p> <p>シカの採食による食草の減少、自然遷移（スギ植林地の鬱閉）、採取</p> <p>「ツシマウラボシシジミ繁殖地」として対馬市の天然記念物に指定されている。</p> <p>長崎県未来につながる環境を守り育てる条例に種指定されている。</p> <p>生息地は壱岐対馬国定公園に含まれる。</p> <p>環境省が生息域外推進モデル事業を実施中。</p> <p>インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>

＜貝類＞

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>3. アマノヤマタカマイマイ (<i>Satsuma amanoi</i>)</p> <p>分類： ナンバンマイマイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I類 (CR+EN) 固有種</p>	<p>ア、 ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>貝殻は中形（殻長22～29 mm、殻径19～21 mm）、各層の膨らみは弱く、先の丸い高円錐形。殻色は乳白色で光沢が強く、色帯をもたない。螺層は6.5層前後。体層周縁には極めて鈍い稜角をもち、殻底の膨らみはやや弱い。殻口外唇は良く反曲する。唇縁は広く反曲するために、臍孔の一部を覆う。軟体部は象牙色で、外套膜縁は灰色。生殖器には陰茎附属肢と鞭状器を具える。陰茎が著しく長く伸びるが本種の最大の特徴である（概ね45 mm以上）。琉球石灰岩上に発達した常緑広葉樹林の植物上で生活する。</p> <p>沖縄県</p> <p>土地造成、道路建設等の各種開発に伴う生息地の減少、採取、在来種による捕食。</p> <p>生息地は沖縄戦跡国定公園に含まれる。 インターネットでの販売が確認されている。</p>
<p>4. ウラキヤマタカマイマイ (<i>Satsuma hemihelvus</i>)</p> <p>分類： ナンバンマイマイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I類 (CR+EN) 固有種</p>	<p>ア、 ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>貝殻は中形（殻長18～23 mm、殻径21～26 mm）、多少薄質で円錐形状を示し、殻底には小さな臍孔がある。螺層は5.5～6.5層。殻色は濁った白色、光沢は弱い。通常、体層に1本の紫褐色の色帯をめぐらす（時には無帯の個体もある）。体層の殻底は黄～黄褐色になり、和名と学名の由来になる。殻口縁は薄く、その上縁部は広がらないが、下縁部は多少広がって反曲する。生殖器では陰茎と陰茎本体がともに長く伸びる。また、輸卵管が12～24 mmと極めて長い。常緑広葉樹林の自然林（アコウ、ハマイヌビワなど）の樹上で活動する。</p> <p>沖縄県</p> <p>森林伐採、圃場整備等の各種開発に伴う生息地の減少、在来種による捕食。</p> <p>市の自然環境保全条例に種指定されている。 生息地は伊良部県立自然公園に含まれる。 インターネットオークションによる取引が確認されている。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
<p>5. イヘヤマタカマイマイ (<i>Satsuma iheyaensis</i>)</p> <p>分類： ナンバンマイマイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I類 (CR+EN) 固有種</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>殻は中形（殻長19～21 mm、殻径22～24 mmほど）、堅固、高い円錐形で、体層周縁には弱い明瞭な角が認められる。殻底の膨らみはやや弱い。体層に色帯を持つ個体、色帯を欠く個体など変異がある。臍孔は狭く開く。殻口はやや肥厚して反曲する。軟体部は灰白色で、外套膜縁も同様。生殖器には鞭状器と陰茎附属肢を持ち、陰茎はやや長い。強く肥厚する部分はなく、全体的に細め。常緑広葉樹林内の自然林の樹上で活動する。</p> <p>沖縄県</p> <p>森林伐採等の各種開発に伴う生息地の減少、採取懸念。</p> <p>生息地は腰岳自然環境保全地域および賀陽山自然環境保全地域に含まれる。</p>

＜甲殻類＞

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>6. カクレサワガニ (<i>Amamiku occulta</i>)</p> <p>分類： サワガニ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>甲は後方が狭くなる台形で、甲幅20mm程にしか達しない小型種。甲の前側縁に1歯を有し、オスの第1生殖肢の先端部が瓶首状にならない点から、最も類似するミナミサワガニ属より識別される。</p> <p>常緑広葉樹林内の幅が1mに満たず、水の流れが少ない浅い溪流に生息する。</p> <p>沖縄県</p> <p>河川開発等の各種開発に伴う生息地の減少、採取。</p> <p>生息地は慶良間諸島国立公園に含まれる。</p>
<p>7. トカシキオオサワガニ (<i>Geothelphusa levicervix</i>)</p> <p>分類： サワガニ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>甲幅が約60mmに達する大型種。大型個体の甲は非常に厚みがあり、甲表面は平滑である。眼窩後方には稜を形成しない。オスの鉗部は片方が非常に大きい。本種は外見上オキナワオオサワガニとクメジマオオサワガニに似るが、オスの第1腹肢基節が中部から先端にかけて徐々に細くなっている点から識別できる。</p> <p>常緑広葉樹林内の幅が1mに満たず、水の流れが少ない浅い溪流に生息する。</p> <p>沖縄県</p> <p>河川開発等の各種開発に伴う生息地の減少、採取。</p> <p>生息地は慶良間諸島国立公園に含まれる。</p> <p>インターネットでの販売が確認されている。</p>
<p>8. ミヤコサワガニ (<i>Geothelphusa miyakoensis</i>)</p> <p>分類： サワガニ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>甲幅約30mmに成長する中型のサワガニ類であり、甲背面は平滑、前側縁に稜が発達し小さな顆粒が並ぶ。イヘヤサワガニ（伊平屋島固有種）と形態的に類似するが、第1生殖肢の形状より区別される。</p> <p>常に水がある湧泉の周辺に生息する。</p> <p>沖縄県</p> <p>農薬汚染、外来生物による捕食（ヤエヤマイシガメ、ティラピア類）。</p> <p>沖縄県の天然記念物に指定されている。</p> <p>市により生息地の一部買い上げが行われている。</p> <p>市が設置した保護監視員による巡視およびヤエヤマイシガメの捕獲が行われている。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>9. ヒメユリサワガニ (<i>Geothelphusa tenuimanus</i>)</p> <p>分類： サワガニ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p>	ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>甲長27.3mm、甲幅38.0mm。甲面は平滑。後胃域の中央がわずかにくぼみ、その両側に溝がある。甲の前側部は円みをおび、側縁に沿って稜線が走る。はさみ脚と歩脚は、同属の近縁種に比べて細く、特に歩脚は著しく細くて長い。</p> <p>常緑広葉樹林内の石灰岩地帯や南部及び中部の琉球石灰岩地帯および洞穴に生息する。</p> <p>沖縄県</p> <p>石灰採掘等の各種開発に伴う生息地の減少、生活排水の流入による水質汚濁、外来種による影響（マングースによる捕食）、在来種による影響（イノシシによる捕食）、採取。</p> <p>生息地は嘉津宇岳・安和岳・八重岳・自然環境保全地域および沖縄海岸国定公園に含まれる。</p> <p>インターネットでの販売が確認されている。</p>

＜維管束植物＞

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 ( 生息状況等 )	
<p>10. オキナワテンナンショウ (<i>Arisaema heterocephalum</i> ssp. <i>okinawense</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。小葉は花をつけた個体で11～19枚あって鳥足状につき、小葉の葉身は披針形から楕円形で、長さ10～20cm、幅2～4.5cm。雌雄偽異株で、同一株で雄株から雌株へ完全に性転換する。花期は1～3月。花序は雄株では花柄が長いため葉より高くつき、雌株では花柄が1～3cmと短いため、葉より低くつく。仏炎苞の舷部は筒部よりも長いかほぼ同長で、内面は濃紫色。石灰岩山地の常緑樹林の林床に生育する。</p> <p>沖縄県 採取。</p> <p>インターネットオークションでの取引およびインターネット販売が確認されている。 生育地は沖縄県指定天然記念物「嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然保護区」および沖縄県指定「嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然環境保全地域」の特別地区に含まれる。</p>
<p>11. ユズノハカズラ (<i>Pothos chinensis</i>)</p> <p>分類：サトイモ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>つる性多年草。茎はまばらに分岐し、葉を2列に互生する。葉の形はミカン属の葉に似ており、卵状披針形～長楕円形、長さ5～10cm、葉柄は1～3cm、幅2～7mm、扁平。肉穂花序は腋生し、楕円形、長さ8mm、基部に数枚の包葉がある。液果は広楕円形で、長さ9mm。自然林および二次林の樹幹や岩上に生育する。</p> <p>沖縄県 工事等の各種開発に伴う生育地の減少、採取。</p> <p>インターネットオークションにて取引が確認されている。 生育地は国指定天然記念物「長幕崖壁及び崖鍾の特殊植物群落」に含まれる。</p>
<p>12. オナガサイシン (<i>Asarum caudigerum</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。全草に長い毛が多い。葉は卵状楕円形～三角形～広心形で先は鋭頭、長さ7～18cm、深緑色で光沢があり、紋様はふつうない。葉面には脈上を中心に白毛が散生し、葉柄には白毛が密生する。花は2～3月。萼筒は淡緑褐色で長さ1cm、上部はゆるくくびれ、外面には白毛が密生する。萼裂片は三角状披針形で先は尾状に細長く伸びて長さ10～25mm、ほぼ無毛。雄蕊は9～10個、雌蕊は6個。石灰岩地の林床に生育する。</p> <p>沖縄県 採取。</p> <p>インターネットオークションでの取引及びインターネット販売が確認されている。 生育地は沖縄県指定「嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然環境保全地域」特別地区および沖縄県指定天然記念物「嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然保護区」に含まれる。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>13. ヒナカンアオイ (<i>Asarum okinawense</i>)</p> <p>分類：ウマノスズクサ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。沖縄県産の種では小形の種類。葉の表面は光沢がなく深緑色で無毛、ふつう紋様があり、卵心形で長さ5～6cmくらい、先はやや鈍頭。葉柄は緑色でまばらに毛がある。花期は3～4月。萼筒は長さ7mmくらいで上部にくびれがなく、萼裂片は卵形で長さ5mm内外、縁は反り返らない。雄蕊は12個、雌蕊は6個。山地の石灰岩地帯林床の石灰岩の割れ目に生育する。</p> <p>沖縄県採取。</p> <p>インターネットオークションでの取引及びインターネット販売が確認されている。生育地は沖縄県指定「嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然環境保全地域」特別地区および沖縄県指定天然記念物「嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然保護区」に含まれる。</p>
<p>14. イエジマチャセンシダ (<i>Asplenium oligophlebium</i> var. <i>iezimaense</i>)</p> <p>分類：チャセンシダ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p>	ア、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。葉柄は長さ2～8cm、基部に鱗片をつける。葉身は単羽状をなし、線形～狭披針形、7～20cm、幅1.5～3.5cm。基準変種のカミガモンシダに比べ羽片が三角状長楕円形で、基部前側の耳は相対的に小さく、基部は広いくさび形になる点で区別される。胞子嚢群は長楕円形から線形、羽片に数個つくが、裂片の辺縁近くにつくこともある。岩壁や崖面に生育する。</p> <p>沖縄県採取。</p> <p>生育地は沖縄県指定名勝「伊江村の城山」に含まれる。</p>
<p>15. ウスイロホウビシダ (<i>Hymenasplenium subnormale</i>)</p> <p>分類：チャセンシダ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。根茎は長く横走。葉柄は長さ2～3cm、基部に鱗片がある。葉身は単羽状、狭長楕円形から広披針形、大きいものでは長さ20cmを超えるが、ふつう長さ10cm、幅7cm前後。羽片は5～10(～15)対。ナンゴクホウビシダ <i>A. cataractarum</i> とラハオシダ <i>A. excisum</i> の中間のような形で、小さい。隆起サンゴ礁の石灰岩上や地上に生育する。</p> <p>沖縄県各種開発に伴う生育地の減少、採取。</p> <p>特になし。</p>
<p>16. ダイトウワダン (<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> var. <i>daitoense</i>)</p> <p>分類：キク科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p>	<p>多年草。茎は木質化し、高さ10～30cm。根出葉はロゼット状に集まり、倒卵状楕円形、長さ4～6cm、幅1.5～2.5cm、表面には多少光沢があり、葉腋から花茎を放射状に伸ばす。花は10～3月、黄色。頭花は散房状に多数つく。総苞は狭筒形、直径2mm、総苞片は3列。ホソバワダンに比べて、葉が小さく、光沢がある。日当たりのよい海岸の岩場に生育する。</p> <p>沖縄県海岸工事等の各種開発に伴う生育地の減少。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)
固有種		④その他 生育地は国指定天然記念物「長幕崖壁及び崖鍾の特殊植物群落」および「南大東島東海岸植物群落」に含まれる。
17. クマヤブソテツ ( <i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>microindusium</i> )  分類：オシダ科  環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)	ア、 ウ、エ	①種の特徴 多年草。葉柄は長さ20～30cm、鱗片は上部へ行くにつれてまばらになる。葉身は頂羽片のはっきりした単羽状複生。胞子嚢群は葉裏に散在し、包膜は緑色～灰白色、やや早落性。側羽片は3～7対、基部は広いさび形。包膜は胞子嚢群の半分の大きさ。山林中の斜面やガレ場に生育する。  ②分布域 熊本県。 ③存続を脅かす要因 採取、シカ食害。  ④その他 生育地は五木五家荘熊本県立自然公園、九州中央山地国定公園に含まれる。奥球磨県立自然公園の指定植物である。
18. ボロジノニシキソウ ( <i>Chamaesyce sparrmannii</i> )  分類：トウダイグサ科  環境省RLランク： 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ア、ウ	①種の特徴 多年草。全株無毛で粉白色を帯び、傷つけると白い乳液を出す。茎はよく分枝して地上を這い、長さ数十cmに達する。葉は対生し、卵状楕円形、長さ1.5cm内外、短い葉柄があり、密生する。雄花と雌花が杯状花序をつくり、杯状花序は茎頂や葉腋に集散状に集まる。杯状花序の総苞の腺体の付属体は白く花弁状。日当りの強い海岸の石灰岩の岩場に生育する。  ②分布域 沖縄県 ③存続を脅かす要因 海岸工事等の各種開発に伴う生育地の減少。  ④その他 生育地は国指定天然記念物「南大東島東海岸植物群落」に含まれる。
19. ハナヤマツルリンドウ ( <i>Tripterispermum distylum</i> )  分類：リンドウ科  環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)  固有種	ア、ウ	①種の特徴 つる性多年草で、冬はロゼットで越す。茎は細く四角形で捻れ長さ1mほどになる。葉を付ける節の長さは茎の中央部あたりで3～7cm。茎葉は柄があり、膜質で広卵形～卵形、先端が尖り、基部は心形～円形。長さ3～4cm、幅1.5～3cmで3脈が目立つ。葉柄は長さ5～12mm。陽光地では茎葉は草質で狭卵形、長さ1.2～2.5cm、幅6～11mm、基部は円形～切形となる。花は淡青紫色で、茎頂または枝端にふつう1つ付き、花茎は8mm以内、小さな葉状の包葉がある。萼は鐘型、筒部は5脈があり長さ6～8mm、裂片は線形で長さ4～6(～10)mm、幅0.5～1(～2)mm。花冠は鐘型で、長さ3～3.5cm、幅1～1.4cm。開口部は広がり、5つの裂片がある。裂片は広三角形で長さ4mm、幅5mm、先端は急に尖る。未熟な種子は不整に押しつぶされた筒状3稜形で翼がある。ツルリンドウに似るが、蒴果である点が異なる。林縁や路傍、落葉樹林、開けた草地、ヤクシマザサの笹原、岩場の浅い土壌の上に生育する。  ②分布域 鹿児島県 ③存続を脅かす要因 歩道工事等の各種開発に伴う生育地の減少、観光客による踏みつけ。 ④その他 生育地は屋久島国立公園、屋久島森林生態系保護地域に含まれる。 屋久島国立公園の指定植物である。



種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>20. ホソバフジボグサ (<i>Uraria picta</i>)</p> <p>分類：マメ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、イ、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草または半低木。高さ1mに達し、茎や花序などに鉤毛がある。葉は5~7 (~9) 小葉からなる奇数羽状複葉で、小葉は線形~線状狭卵形 (茎下部の葉では頂小葉が楕円形~広卵形など幅の広いものも混ざる)、長さ7~15cm、幅7~15mm。表面はほぼ無毛。花は蝶形で青紫色、直立した茎の上部に密集して長さ15~25cmほどの穂状の偽総状花序をつくり、開花前は密生した苞でおおわれる。苞は卵形または狭卵形で長さ10~15cm、各々に2花を抱くが開花とともに落下する。果実は3~5個の小節果で無毛、節のところでジグザグに折れ曲がり、小節果の長さはほぼ3mm、幅2.5mm。日当たりのよい原野に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>各種開発および自然遷移に伴う生育地の減少。</p> <p>宮古島市自然環境保全条例保全種、石垣市自然環境保全条例保全種である。</p>
<p>21. サクヤアカササゲ (<i>Vigna vexillata</i> var. <i>vexillata</i>)</p> <p>分類：マメ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>つる性多年草。葉は3小葉からなる奇数羽状複葉。小葉は狭楕円形~楕円形で鋭頭、基部は円形~鈍形、両面に長毛がやや密生する。托葉は底着し、基部の両端が耳状にやや伸びる。4~10月、葉腋から上向した長柄の先に1~2個の大形の蝶形花を総状につける。花は淡赤紫色で、径2~3cm、2枚の竜骨弁は縁同士が合着して筒状になり、その先は嘴状にやや伸びてややねじれ、右側の竜骨弁に低い距がある。豆果は線形で、長さ6~8cm、褐色の剛毛があり黒熟して裂開し、10~18個の種子を飛ばす。海岸から内陸平地の土壌がよく発達した草地に生育する。</p> <p>沖縄県 (沖縄島)、世界の熱帯・亜熱帯に分布する。</p> <p>観光客の踏みつけによる環境変化、採取懸念。</p> <p>生育地は沖縄県指定の天然記念物「万座毛石灰岩植物群落」および沖縄海岸国定公園に含まれる。</p>
<p>22. クロカミシライトソウ (<i>Chionographis koidzumiana</i> var. <i>kurokamiana</i>)</p> <p>分類：ユリ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。チャボシライトソウに似るが、花被片が少し短く4~12mmで先端が太くなる。根生葉はロゼット状に出て長楕円形。5~6月、花茎の頂に穂状花序がつく。糸状の花被片は長さ4~12mmで、先がやや太くなる。両性花と雄花をつける。山地の林中、岩角地の林内や湿った岩上に生育する。</p> <p>佐賀県に分布する。</p> <p>採取。</p> <p>生育地のは黒髪山県立自然公園に含まれる。佐賀県環境の保全と創造に関する条例希少野生動植物種に指定されている。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
<p>23. ササキカズラ (<i>Ryssopterys timoriensis</i>)</p> <p>分類：キントラノオ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年生藤本。茎は径2.5mmくらい。葉は対生し、葉身は卵円形で長さ10～15cm、心脚、全縁、短鋭尖頭で洋紙質、葉柄は長さ3cm、上部に2個の腺体がある。散房花序は3出で、15花ほどをつける。花期は8～9月。花は両性、まれに雑居性で、径1.5～2.5cm、花弁は黄色、長さ6～10mm。翼果は半倒卵形、長さ3cm、幅1.5cm、はじめ絹毛を有す。マングローブ内、海岸から山地の林縁に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>各種開発に伴う生育地の減少、採取懸念。</p> <p>生育地は西表石垣国立公園に含まれる。石垣市自然環境保全条例要注意種および宮古島市自然環境保全条例保全種である。</p>
<p>24. ヤブミョウガラン (<i>Goodyera fumata</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。湿った林床に生育する大型の常緑の地生ランで、茎は太く短く匍匐し、先は直立し、花茎を高く伸ばす。花序を含めて長さ70cmになり、4～6葉を互生する。葉は広披針形、長さ20cm。総状花序は頂生し、多数の花をつけ、大きな花序では100以上の花をつけ、数個ずつ花序の下方から順次咲かせる。花は赤褐色、唇弁は淡黄褐色で先端は白色、萼片は長さ7～8mm、長楕円形～卵状長楕円形、花弁は長さ7～8mm、線状倒披針形、唇弁は長さ7～8mm、卵形で、先は尖り下方に反り返り、基部はやや囊状になり、上面に短毛が生える。石灰岩地の適度な湿度が保たれる林床に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>森林伐採等の各種開発に伴う生育地の減少、採取。</p> <p>インターネットオークションでの取引およびインターネット販売が確認されている。</p>
<p>25. テツオサギソウ (<i>Habenaria stenopetala</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	ア、ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。地中に楕円形の塊根がある。茎は直立し、花序を含めて長さ45～60cm、茎の中央部付近に5～8葉を束生する。葉は狭長楕円形、長さ12～15cm、緑色で、やや光沢がある。総状花序は頂生し、20～25花を密につける。花は淡緑白色、萼片は長楕円形～卵形、長さ8～10mm、花弁は線形、基部は耳状となり、長さ8～10mm、唇弁は長さ1cm、基部で3裂し、裂片は線形、基部に長さ1.5～1.7cmの線形の距がある。暖地の山地自然林の陰湿な林床に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>森林伐採等の各種開発に伴う生育地の減少、採取。</p> <p>インターネットオークションによる取引が確認されている。</p> <p>生育地は国指定名勝「川平湾及び於茂登岳」、西表石垣国立公園に含まれる。石垣市自然環境保全条例の保全種に指定されている。</p>

種名 (学名)	選定要件※	選定理由 (生息状況等)	
<p>26. オオカゲロウラン (<i>Hetaeria oblongifolia</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、 ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。高さ40～50cm。茎はやや匍匐し、先は直立し、長さ20～25cm、6～7葉を互生する。葉は卵状披針形、長さ5～9cm、上面に光沢がある。頂生する総状花序は長さ25cmになり、密に30～40花をつける。花期は4～5月頃。花は平開せず、白色で外面は淡緑褐色を帯び、萼片と花弁は長さ4mm、唇弁は長さ3mm、卵形、子房はねじれず、唇弁は花序の先端側に位置し、子房や萼には白毛がある。比較的乾燥した立地の山裾の自然林の林床に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>各種開発に伴う生育地の減少、採取。</p> <p>生育地は国指定名勝「川平湾及び於茂登岳」、西表石垣国立公園、沖縄県「宇良部岳自然環境保全地域」に含まれる。</p> <p>石垣市自然環境保全条例の保全種に指定されている。</p>
<p>27. オオギミラン (<i>Odontochilus tashiroi</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	<p>ア、 ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。茎は匍匐し、先は直立し、花序を含めて長さ20cmになる。葉は一様な緑色で、卵状長楕円形、鋭頭、基部は円く、長さ4～5cm、幅2cm。葉柄は長さ2cm、基部は鞘となる。茎の上部は鱗片葉を少数つけ、萼片とともに有毛。総状花序は頂生し、7～8月に花序は帯紅色の5花程度を疎らにつける。苞は卵状披針形、鋭尖頭、有毛、長さ1cm。背萼片は卵形、長さ0～6mm、やや尾状で鈍頭、外面に腺状のひげ毛がある。側萼片は長楕円形。側花弁は披針形、背萼片に合着する。萼片と花弁は長さ6mm、帯紫緑色で白色の網目状の斑紋が入り、唇弁は長さ23mm、白色、基部は胞状にふくれ、それより先は細い槌状となり、その縁は房状に分裂し、先端の舷部は2裂してY字形となり、基部から中央にかけて櫛の歯状に5～9対の糸状突起がある。蕊柱は短く、葯は卵形。花粉塊は倒狭卵形、2個。暖地の山地自然林（竹藪、常緑広葉樹林）の林床に生育する。</p> <p>鹿児島県、沖縄県</p> <p>森林の伐採等の各種開発に伴う生育地の減少、採取。</p> <p>インターネットオークションでの取引およびインターネット販売が確認されている。</p> <p>生育地は西表石垣国立公園、西表島森林生態系保護地域保存地区に含まれる。</p> <p>屋久島国立公園および西表石垣国立公園指定植物である。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>28. ハチジョウツレサギ (<i>Platanthera okuboi</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	<p>ア、ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。2枚の葉が根生状になり、30個前後の花が穂状に咲く。茎は紡錘状に肥厚した根から出て、高さ20～45cm、下部に相接してふつう2個の葉を根生状につける。葉は長楕円形、長さ10～20cm、幅3～6cm、鈍頭、基部は細く柄となる。茎の上部に鱗片葉があり、広披針形。5～6月、やや密に淡緑色を帯びた白色の花を多数つける。花被片が開き始めると、水平だった距は山型に個を描き先端が下降する、側萼片は幅広く斜め下向きにやや反る。背萼片は三角形で縁が丸みを帯び、ずい柱に覆いかぶさるが、次第に上向く。側花弁は内側にやや湾曲し、ずい柱を左右から覆う。唇弁は下向し、やや反り返り、基部は距の入り口となり、ずい柱へと続く。小嘴体の先端は半円状で、距の入口との間が柱頭となる。葯隔は半管状に湾曲し、両端の葯室は「ハ」の字型となり上端はやや接近する。葯室の一部は赤褐色に色づき、袋状になった下端の裂け目に花粉塊粘着体の先端が露出する。苞は広披針形。背萼片は広卵形、長さ6～8mm。側萼片は背萼片よりすこし長く広披針形。側花弁はやや肉質で狭斜卵形、背萼片とほぼ同長。唇弁は広線形、長さ10～13mm、鈍頭。距は長さ2.5～3cm。海岸付近の貧栄養の砂地で灌木周辺の明るい場所または山地の林縁付近の明るい場所に生育する。</p> <p>東京都</p> <p>採取、道路整備等の各種開発および自然遷移に伴う生育地の減少。</p> <p>生育地は富士箱根伊豆国立公園に含まれる。富士箱根伊豆国立公園の指定植物である。地元活動団体による不定期な見回りが行われている。</p>
<p>29. リュウキュウヒメハギ (<i>Polygala longifolia</i>)</p> <p>分類：ヒメハギ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>一年草。全株無臭。無毛で、茎はまばらに分枝し、高さ25～40cm。葉は線形で長さ15～20mm。柄は短い。総状花序は後に20cmにも伸びる。花は白色、長さ2.5～3mm。紫色の細点が入る。蒴果は毛がなく、狭い翼がある。低木林の明るい林床や原野に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>各種開発および自然遷移に伴う生育地の減少。</p> <p>生育地は久米島県立自然公園に含まれる。</p>
<p>30. アラゲタデ (<i>Persicaria attenuata</i> ssp. <i>pulchra</i>)</p> <p>分類：タデ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IB類 (EN)</p>	<p>ア、ウ</p>	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>常緑多年草。茎は斜上し、高さ60～100cmに達する。葉は披針形、長さ5～10cm、両面に白色の絹毛を密布する。花は白色。湿地に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>湿地埋め立て等の各種開発に伴う生育地の減少、除草剤の散布、外来種（ボタンウキクサ、ホテイアオイ）との競合。</p> <p>特になし。</p>

種名 (学名)	選定要件*	選定理由 (生息状況等)	
<p>31. ダイトウサクラタデ (<i>Persicaria japonica</i> var. <i>taitoinsularis</i>)</p> <p>分類：タデ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。茎は斜上し、高さは60cmに達する。托葉鞘や葉の下面脈上に毛がある他は無毛で、全体の様子はケタデの無毛型であるリュウキュウタデに似るが、柱頭が2本でそう果が凸レンズ形である点で大きく異なる。また、この点で似ているシロバナサクラタデとは、花が2～3.2mmと小さく小花柄が苞よりも短い点で区別できる。池の畔の湿地に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>湿地埋め立て等の各種開発に伴う生育地の減少、除草剤の散布、外来種（ボタンウキクサ、ホテイアオイ）との競合。</p> <p>特になし。</p>
<p>32. ヒメクロウメモドキ (<i>Rhamnus kanagusukui</i>)</p> <p>分類：クロウメモドキ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>高さ3mに達する落葉低木。小枝は灰紫色で長枝の先端は刺となる。葉はやや対生し、革質に近く、厚くて硬く、狭小で、長楕円状倒披針形または長楕円形、長さ1～4cm、幅0.3～1.2cm、ほぼ全縁、側脈は2～3対、縁に不明の細鋸歯がある。雌雄異株。花は3月頃咲き、葉腋に単生し、淡緑白色、花梗は長さ5mmくらい、萼片は4個、長さ1.5mm。果実は広倒卵形、長さ3mmで暗赤色に熟す。海岸近くの石灰岩の崖に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>採取。</p> <p>生育地は沖縄県指定天然記念物「万座毛石灰岩植物群落」および沖縄海岸国定公園に含まれる。</p>
<p>33. ヨナクニトキホコリ (<i>Elatostema yonakuniense</i>)</p> <p>分類：イラクサ科</p> <p>環境省RLランク： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p>	ア、ウ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>多年草。茎は高さ15～20cm、基部は匍匐し、上部は直立、8～10枚の葉を互生する。葉は小型で長さ2～4cm、上半分に2～4個の鋸歯がある。雌雄同株または異株で、花序の総苞の縁に緑色の付属体がある。雄の集散花序は腋生し、4～8花をつけ、雌の集散花序は頭状で、径2～3mm。低地の石灰岩地の陰湿な林内の岩上に生育する。</p> <p>沖縄県</p> <p>各種開発に伴う生育地の減少、自生地周辺の開発による環境変化、河川への赤土砂の流入と堆積。</p> <p>生育地は「宇良部岳自然環境保全地域」および「久部良岳自然環境保全地域」に含まれる。</p>

※ 選定要件について

○ 希少野生動植物種保存基本方針(平成4年総理府告示第24号) (抄)

第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

1 国内希少野生動植物種

(1) 国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）で、以下のいずれかに該当するものを選定する。

ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種

イ 全国の分布域の相当部分で生息地又は生育地（以下「生息地等」という。）が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種

ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種

エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種